



AMG 560SEC 6.0-4V Wide Version

スーパースポーツカーに匹敵するオーラを湛えた稀代のクーペ

CARATの専用インテリアを持つ個体も存在

我が国においても数多くのファンを獲得したメルセデス・ベンツのタイプ126(Sクラス)シリーズに、流麗なクーペ・ボディを有する魅力的なグレードが追加設定されたのは1981年のことだった。

SECと呼ばれたエレガントな高級パーソナル・クーペに与えられた型式名はC126で、標準ボディ仕様のSEに付けられたW126、ロング・ボディ仕様のSELに付けられたV126とは当然のことながら差別化が図られた。

当初、V8エンジンを搭載する380SECと500SECという2種のみがラインナップされたC126型Sクラス・クーペだが、1985年にハイエンド・モデルとなる560SECが登場した。まったく同じタイミングで、380SECは420SECへと移行した。

AMG 560SEC 6.0-4Vは、ハイエンド・モデルのメルセデス・ベンツ560SECをベースとしてエンジンの高出力化し、サスペンションを引き締め、内外装の高級化などを徹底的に図ったモデルだ。

前期型に搭載されたエンジンは、V型8気筒SOHCエンジン(M117タイプ)のブロックをボアアップし、AMG製DOHCヘッドやプロファイルが異なるカムシャフト、そして、ビッグバルブ等を組み込み、独自の豪快なフィーリングを得た通称ハンマーヘッドDOHC6リッター仕様だった。

最高出力は375psに達し、美しいC126型SECボディを軽々と200km/hオーバーの世界へと導いた。なお、1991年に降にリリースされた後期型には、M117型ユニットよりも扱いやすい

味つけのM119タイプエンジン(V型8気筒DOHC/6リッター)が搭載された。トランスミッションは4速ATのみで、メルセデス・ベンツ製を強化したものが用いられた。

ボディがワイド化された迫力ある仕様も用意され、AMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionと呼ばれた。ナロー・ボディ仕様のAMG 560SEC 6.0-4Vでも十分見る者を圧倒できたが、ワイド・バージョンの威圧感は格別で、スーパースポーツカーが大挙して集まるイベント等にも乗りつけても独自の存在感を発揮できた。

また、内装がベルギーのキャラット・ドウシャトレ(Carat Duchatelet)が仕立てた専用インテリアになっているモデルも存在し、こちらも熱心なファンを獲得した。

一部のファンの間では、ボディがワイド・バージョンで、インテリアがキャラットになっている仕様がベストとされ、そのような仕様になっ



AMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionのベースとなったメルセデス・ベンツ560SEC(C126型)は、クーペでありながらも十分な室内空間を有していた。スタイルは優雅のひとつと見て、AMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionの豪快さは対極にあった。



ボディカラーがマラカイトグリーンの現車は1991年式の良質車で、走行距離は6万2000kmだった。価格は応談。内装はキャラットの専用インテリア(グリーン/ページュバイビングレザー)だ。ナロー・ボディ仕様のAMG 560SEC 6.0-4V(ブルーブラック)も同年式車で、こちらも価格は応談(走行距離は5万6000km)。両車とも圧倒的な加速を堪能できるので、所有する喜びと走る喜びを味わえる。特にAMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionは眺めているだけでも楽しい。撮影協力：CRED(クレド) <http://www.cred.co.jp/>

ているAMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionは各方面で注目度が高かった。

実は、今回“主役”としてピックアップした個体はAMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionのキャラット内装仕様で、静止している状態を見るだけでも惚れ惚れしてしまった。

今日でもメルセデス・ベンツがAMGのブランド名でリリースする最上級スポーツモデルは、デジノ(designo)をチョイスすることで特別な個性を獲得できるが、AMGがメルセデス・ベンツと密接な関係にありながらも名チューナーとして単独で存在していた時分に生産されたモデルは、やはり、並々ならぬオーラを湛えているのであった。

キャラット・ドウシャトレは今日でもゴージャスなインテリアをセットアップし続けているが、今後、AMG 560SEC 6.0-4V Wide Versionのような存在感溢れるクルマがAMGからリリースされることはないだろう。早速、自前の自動車世界遺産に登録しておこう。